



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
2月17日
発行

第17回

「バイデン元副大統領が勝てないわけ」

～ 勝機が消えたトランプ大統領～

初めに

米大統領選の民主党予備選はまだ序盤ですが、ピート・ブティージェッジ前インディアナ州サウスベンド市長とバーニー・サンダース上院議員が好スタートを切りました。その一方で本命視されたジョー・バイデン元副大統領は出遅れています。バイデン氏の苦戦については前回は触れましたが、今回は改めてこの点を掘り下げながら大統領選の先行きについて考えます。

なぜバイデン氏だったのか

そもそも不思議なのはまだ2戦目とはいえ、低迷を続けるバイデン氏がなぜ本命視されるに至ったかですが、この点については、政策的に中道で、党の結束を維持できると思われたこと、また現在でも人気が高いと言われるバラク・オバマ大統領の下で副大統領を務めたことなどが評価されたことなどが挙げられます。

失望に変わったオバマ氏への熱狂

オバマ氏は2期8年大統領を務めた大物政治家で今でも応援演説の依頼も多いと聞きます。オバマ氏は米国における初の黒人大統領として熱狂を引き起こしました。しかしその実績はどうでしょうか。平等や格差是正という点での実績はオバマケア程度で、期待外れと感じた支持者も多かったと思います。またミシェル夫人がセレブとしてマスコミに登場するようになったこともマイノリティや低所得の支持者には裏切り行為と映ったかもしれません。このように見ると党内におけるオバマ氏の人気は民主党執行部が思ったほどではなく、そのオバマ氏との関係をアピールポイントにするバイデン氏の苦戦は不思議なことではないと思います。

オバマ氏への失望感を衝いたトランプ氏

前回の大統領選でトランプ大統領が勝利できた理由の一つは、オバマ氏に対する失望感を衝いたことにあると見ています。例えばラストベルトと呼ばれる北部の工業地帯は従来民主党の地盤でしたが、中国などとの競争に敗れて工場が閉鎖されました。その地域にトランプ氏が攻勢をかけ、票を獲得しました。このように考えるとオバマ氏は民主党の中道派などに対しては人気があるかもしれませんが、所得の低い左派系の支持者の間にはそれほど人気はないと考えられます。

一段と小さくなるトランプ氏再選の可能性

現在の米国では党派にかかわらず既存の政治家への失望感が目立ちます。トランプ大統領の誕生もその一つです。バイデン氏の苦戦についても同じことが言えるでしょう。トランプ氏はバイデン氏を警戒しており、彼の苦戦を喜んでいたりかもしれませんが実は既存の政治家であるバイデン氏はトランプ氏にとって最も戦いやすい相手ということになります。皮肉なことですが、現時点におけるバイデン氏の苦戦は、ただでさえ小さいトランプ氏再選の可能性を更に小さくするものと考えています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。